

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 13 号:2010 年 10-11 月期】

- * 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済発展の実績

2010 年 1-9 月期のウズベキスタンの社会・経済発展。

同期間の経済成長率は 8.3%（前年同期は 8%）、GDP は 40 兆 4,125 億スム（248 億ドル）であった。輸出額は 10.9%上昇、36 億ドルを上回る貿易黒字が確保された。国家予算は GDP 比 0.2%の黒字、インフレ率は 4.2%で予測の指標範囲内であった。

この 9 ヶ月間の実施済み投資総額は 10 兆 8,000 億スムで、対比価格による前年同期比で 8.1%増加した。このうち、直接外国投資および融資の伸び率は 15.1%（18 億ドル）であった。

生産近代化、設備更新の実施のために行なわれた商業銀行の融資額は 2 兆 4,000 億スムを上回ったが、これは前年同期の 1.5 倍である。

ウズベキスタン予算の歳出額は 2011 年には 104 億ドルを超え、そのうちの 60%が社会分野支援に向けられる。

特に、教育に 36 億 1,000 万ドル、保健に 13 億 5,000 万ドルが支出される。なお、保健部門への支出額は 2010 年度よりも 7 億 9,500 万ドル増やされる。2010 年度予算の歳出額は 13 兆スム（79 億 5,500 万ドル）だった。

2011 年の GDP 成長率は 8.3%のレベルで予測されている。輸出額は 10.3%の伸びが見込まれている。

金融セクター

韓国開発銀行(KDB)がウズベキスタンにある Royal Bank of Scotland Group PLC (RBS)の子会社—「RBS オズベキストン」の過半数(82.35%)の株式買収を発表。

KDB は自行の現地子会社「UzKDB」と「RBS オズベキストン」を合併させる。ウズベキスタンにある外国銀行の 2 つの子会社の合併により、外国オーナーが所有する最大の銀行が誕生する。これによって、KDB はウズベキスタンにおける業務を大幅に拡大することが可能になる。現在、KDB のウズベキスタン国内にある資産は約 1 億 2,300 万ドル、RBS 子会社の資産は 3 億 6,500 万ドルと評価されている。KDB は石油

ガス産業、エネルギー産業、道路および空港建設、貴金属採掘、繊維産業、その他の部門の案件に融資を行なっている。

投資政策

ウズベキスタンは2010年に62案件の枠内で24億2,900万ドル超の直接外国投資・融資を消化する計画。

このうち、18億2,500万ドルは新規の建設に、2億9,800万ドルは種々の施設近代化と改修に向けられる。投資の大きな部分が地質調査事業、燃料エネルギー、化学、石油化学、冶金産業の案件に向けられた。

ナヴォイ探鉱・冶金コンビナート（NGMK）は2010 - 2015年間に合計投資額13億ドルの32案件を実施する。

NGMKは世界有数の金とウランの生産会社で、年間生産額15億ドル超のウズベキスタン最大の探鉱・冶金企業である。コンビナート傘下の工業企業は国内7つの地域に展開している。NGMKの工業および厚生セクター、建設部門では合計6万8,000人以上が働いている。

エネルギー・セクター

ウズベキスタンの火力発電所改修に9億7,500万ドルの投資を計画。

既存の火力発電所を近代化し、出力を434 - 454Mw増強するために6の案件の実施が予定されている。その中で最大案件になるのは、ノヴォ・アングレン火力発電所の第6、第7号発電機を石炭燃焼に転換する事業。火力発電所の電力生産用燃料の比率はガスが90.8%、重油が5.3%、石炭が3.9%を占めている。近い将来、天然ガスは基本的な燃料として残るが、燃料バランスでは石炭の比率が10 - 12%まで増えるだろう。

韓国の大宇インターナショナルの子会社000「Daewoo Energy Central Asia」が2011年にウスチュルト地域コスクディクおよびアシブラク投資ブロックで炭化水素試掘作業を実施する。

現在、Daewoo Energy Central Asiaは試掘プログラムを実施する会社の選定を開始した。2008年に国家持ち株会社「ウズベクネフチェガス」と大宇インターナショナルの間で結ばれた協定の枠内で、大宇側は5年間に4,000万ドルを投資してコスクディクおよびアシブラク投資ブロックで炭化水素の探鉱作業を実施する義務を負った。そのうち、2,760万ドルは最初の3年以内に投資することになっている。

ウズベキスタンのガソリン生産量が2010年1 - 9月期に前年同期比11%減少。

国家統計委員会の資料によると、この期間に 106 万 6,800 トンのガソリンが生産された。生産量減少は燃料エネルギー・セクターの他の製品でも生じた。とりわけ、石油およびガスコンデンセートの生産量は 280 万トンで-18.7%、ディーゼル燃料は 85 万 5,100 トンで-13.8%、灯油は 27 万 2,500 トンで-9.2%だった。

2016 年までに圧縮天然ガス (CNG) 自動車の比率を 29%まで増やすことを計画。

2010 年 1 月 1 日現在のウズベキスタン国内の総自動車台数は 163 万 4,600 台だった。そのうち、液化天然ガス (LNG) 自動車は 7% (11 万 4,100 台)、CNG 自動車は 8% (12 万 9,200 台) を占めている。2015 年までにウズベキスタンでは 352 のガススタンドを開設することが計画されている。そのうち、135 はすでに各地で営業している。現在、国家持ち株会社「ウズベクネフチェガス」は、経済特区「ナヴォイ」の区域内で自動車用ガスポンペを生産する案件、ガススタンド網整備に関する案件で「Kogas」、 「Kolon」両社と共同作業を進めている。

自動車・輸送セクター

幹線自動車国道建設のために新たな資金。

イスラム開発銀行が幹線自動車国道建設のためにウズベキスタンへ 1 億 6,720 万ドルを供与することを承認した。この資金はとくに、延長 100km の自動車道「ブハラ＝カルシ＝グザル＝テルメズ」(M-39) 線の 3 区間を改修し、アスファルト舗装 2 車線をコンクリート舗装 4 車線に変える案件に向けられる。2009 年 5 月にカリモフ・ウズベキスタン大統領は、2009 - 2014 年の間に費用約 26 億ドルで 1 級幹線自動車国道を建設するプログラムを承認した。これは 4 区間総延長 1,501km の自動車道の建設を内容にしている。

「ERAЕ Cs Ltd」(韓国) が 2010 - 2012 年にアンジジャンに乗用車用熱交換装置工場を開設する。

ERAЕ Cs と「ウズアフトサノアト」は、ZAO「GM ウズベキスタン」で製造される自動車用にラジエーター、エアコン、換気装置を生産する合弁企業を設立する。新施設の設計生産能力は年間 18 万セットの予定。ERAЕ Cs 社にとってこれはすでにウズベキスタンで自動車部品を生産する 3 番目の案件である。

ZAO「GM ウズベキスタン」の 2010 年 1 - 9 月期の自動車生産台数は前年同期比 11.2% 増の 16 万 831 台。

内訳は Nexia 6 万 7,580 台 (5.7%増)、Matiz 5 万 3,781 台 (10.7%増)、Damas 1 万 5,729 台 (6.8%減)、Lacetti 1 万 8,037 台 (32.2%増)、Captiva 1,631 台 (2.2 倍の

増加)、Epica 2,861 台 (3.5 倍の増加)。また、2010 年 8 月から 9 月末までに Chevrolet Spark 1,212 台も製造された。

ZAO「GM ウズベキスタン」のロシアへの 2010 年 1 - 9 月期自動車輸出は 1.4%増。
Nexia の輸出台数は 1.52 倍増の 3 万 1,879 台、Matiz は 26%増の 2 万 2,685 台に増えた。4 月に同社はロシアで Matiz と Nexia の中古車の交換・廃車特別プログラムを開始した。GM ウズベキスタンは 2010 年には生産台数を 22 万台に増やす (2009 年は 20 万 5,000 台)。2011 年には、8 月にアサカ工場で製造を開始した Chevrolet Spark のロシア向け輸出開始を計画している。

その他のセクター

ウズベキスタンに CIS 初の発光ダイオード (LED) 照明器具生産施設の計画。

国家株式会社「ウズベクエネルゴ」と韓国の Semi Lighting Co LTD は 2011 年初めにウズベキスタンに合弁会社を設立する。この会社の当初の生産能力は LED 照明器具約 160 万個。案件の投資総額は 2,000 万ドルを上回る。そのうち 1,600 万ドルを韓国側が、約 400 万ドルをウズベク側が投資する。生産の当初の国産化率を 30%まで引き上げることが計画されている。

中国の Tianjin Cotton Exchange Market (TCEM) が天津にウズベク産綿花取引会社を設立。

同取引所とウズベキスタン政府の間で天津港の自由貿易区内にウズベク産綿花のスポット売却をする合弁会社を設立する覚書が調印された。合弁会社の計画では 10 万トンまでの綿繊維の売却が予定されている。2009 - 2010 年シーズンに中国はウズベキスタンから 24 万 9,080 トンの綿繊維を輸入した (中国の綿花総輸入量の 10.5%)。ウズベキスタンは 2010 - 2011 年シーズンには国内加工量を増やして綿繊維の輸出を 70 万トンまで減らすことを計画している (2009 - 2010 年シーズンには 76 万トン)。2015 年までにウズベキスタンでは生産する綿花の 70%までを国内加工する計画を立てている。

ウズベキスタンは 5 年間に 100 を超す案件の枠内で 16 億ドルを上回る投資を軽工業に行なう。

これらの案件の実施により、綿繊維の国内加工レベルを全生産量の 70 - 80%まで引き上げ、国内繊維産業の輸出力を 3 倍以上に高めることを計画している。近年、繊維産業には 13 億ドル超の外国投資が導入され、100 以上の企業が設立された。